

「大事故の予兆をさぐる - 事故へ至る道筋を断つために - 」: 宮城雅子著、講談社ブルーバックス B1209。ISBN 4-06-257209-5 (定価 1040 円 + 税)



目次	
はじめに	: 事故へ至る道筋を断つために
1章	: 事故の前には必ず予兆がある
2章	: パイロットが体験した前事故事象
3章	: 管制官が経験した危機一髪
4章	: 機体に潜む危険と闘う整備士
エピローグ	: I R A S の確立に向けて

航空法調査研究会の代表幹事として I R A S (Incident Report Analysis System) を提唱している著者が、過去に起きた航空機事故の分析と運行乗務員、航空管制官、整備員を対象に独自に収集したインシデント事例を元に、一つ一つは小さなイベントが、重畳し、つながっていくことで大事故に至る過程を詳細に分析し、いかに小さなトラブルの連鎖が大事故につながっていくかを分析している。

著者が提案している I R A S は事故に至らないインシデントを収集、分析するシステムで、その背後には、事故の分析は起ってしまったからの事後分析では真の原因追及は不可能で、小さなインシデント段階で事故の連鎖への芽をつみ、インシデントが大事故へ至る道筋を断つことが、真の事故防止であるという著者の主張がある。